

3. 平成 23 年度で終了した計画研究

旧世界ザルの変異性と進化に関する多面的アプローチ

実施予定期間：平成 21～23 年度

課題推進者：高井正成，西村剛，江木直子，マイク・ハフマン，毛利俊雄

本計画研究は、旧世界ザル類（オナガザル科）の変異性と進化に関して、様々な分野からの多面的なアプローチによる研究を目指して行った。オナガザル科のサルはオナガザル亜科とコロブス亜科の二つのグループからなるが、その形態・食性・行動パターンなどに大きな変異が存在する。こういった旧世界ザルの多様性とその進化に関して、様々な研究分野の手法を用いて研究を推進した。研究対象は現生種と化石種の両方にまたがり、頭骨・下顎骨・歯・椎骨・足根骨・大腿骨など、様々な部位の形態についての研究が行われた。伝統的なノギスを使った計測、最近の流行である接触型の 3 次元計測器を用いた幾何学的形態計測、X 線 CT を用いた骨内部の構造解析、洞窟内のサルの骨格化石と糞の分析など、多岐にわたる手法が用いられた。これらの研究結果の一部は、平成 23 年 3 月 7～8 日に開催された共同利用研究会「CT を用いた霊長類研究の新展開」で発表された。

研究実施者

<平成 21 年度>

- 小藪大輔（東京大・院・理学系）「現生および化石コロブス類における進化形態学的研究」
- 東 華岳（岐阜大・医学研究科）「霊長類椎骨における三次元画像の電腦解析」
- 近藤信太郎（愛知学院大・歯・解剖）「旧世界ザル下顎骨外側面にみられる隆起の種間変異」
- 二神千春（愛知学院大・院・歯）「ニホンザルにおける上顎乳臼歯、小白歯、大白歯の歯冠サイズの関係」
- 姉崎智子（群馬県博）「考古遺跡出土ニホンザルの骨形態の地理的変異に関する研究」

<平成 22 年度>

- 東 華岳（岐阜大・医学研究科）「霊長類大腿骨頸部における三次元画像の電腦解析」
- 姉崎智子（群馬県博）「現生および考古遺跡出土ニホンザルの骨形態変異に関する研究」
- 小藪大輔（京都大・総合博）「現生および化石コロブス類における進化形態学的研究」
- 城ヶ原ゆう（岡山理大・院・総合情報）「霊長類の踵骨及び距骨における個体発生」
- 張 穎奇（中国科学院・古脊椎動物／古人類研）「中国広西から産出した前期更新世マカクの全身骨格化石の比較解剖学と機能解剖学的研究」
- 矢野 航（京都大・理）「オナガザル族の聴覚器官の機能形態学的進化に関する研究」
- 近藤信太郎（愛知学院大・歯・解剖）「オナガザル亜科の下顎骨外側面にみられる隆起の加齢変異」

<平成 23 年度>

- 小藪大輔（京都大・総合博）「現生および化石オナガザル類における進化形態学的研究」
- 鏑本武久（林原生物化学研・古生物センター）「現生旧世界ザルにおける距骨の変異と化石への応用」
- 姉崎智子（群馬県博）「現生および考古遺跡出土ニホンザルの骨形態変異に関する研究」
- 東 華岳（岐阜大・医学研究科）「霊長類椎骨の外部形状と内部構造の統合解析」
- 柏木健司・阿部勇治・瀬之口祥孝（富山大・理工学部）「異なる気候下におけるニホンザル化石の骨体形質比較」
(文責：高井正成)

4. 共同利用研究会

第 12 回ニホンザル研究セミナー

日時：2011 年 6 月 11 日・12 日

場所：京都大学霊長類研究所大会議室

研究会世話人：半谷吾郎，辻大和（京大・霊長類研究所）

ニホンザル研究セミナーは、これまで過去 9 年に渡って、共同利用研究会や自主的な集会として実施してきた。この研究会では、ニホンザルを対象としたフィールドの研究者が、交流し討論できる場を作ることを目的としている。第 12 回目となる今回も若手研究者の方に修士課程や博士課程での研究成果を中心に発表をお願いし、中堅・ベテラン研究者が、それに対してコメントするというスタイルで行われた。また、ポスター発表を公募し、修士・博士論文の途中経過などについて発表してもらう機会を設けた。48 名の方に参加いただき、活発な議論をすることができた。

<プログラム>

6 月 11 日（土）

12:58～13:00 挨拶 半谷吾郎（京都大学 霊長類研究所）

13:00～14:00 齋藤昌幸（横浜国立大学大学院 環境情報学府）都市から森林に至る景観傾度と野生哺乳類